



発行所 東京薬科大学 新聞会
責任者 宮原勇人
新聞会 会員募集!!

形骸化する

学生大会

意見を持たない学生たち

平成二年度前期定期学生大会が七月四日に挙行された。今回は出席者が八百八十四名、委任状の提出者数が四百八十六名の計千三百七十名が参加した。今回は執行委員会の不要物持ち込み制限により大会としての雰囲気がいびつ作られたようであった。

第一号議題 「所信表明」

「学生自治会の最高執行機関である執行委員会では、大学との直接交渉を行い、学生自治会の最高議決機関である学生大会などを行っている」(執行委員長演説より)

第二号議題 「施設問題」

平成二年度学費値上げの見返りである新談話室の建設経過報告、よりよい施設建設への負担が語られた。

第三号議題 「学費値上げについて」

平成三年度入学生より導入されるスライド制学費値上げの詳細、学生自治会では理事等に学生の意見を伝えるシステムの設立に全力を尽くすと述べている。

第四号議題

「交通問題について」

学部学生駐車場の閉鎖にもう一新駐車の確保とスクールバスの時刻改正交渉への抱負。先の時刻改正は増発分が授業開始時間を考慮してなかったことを踏まえ、今後は使えるスクールバスの達成を目指したいと述べている。

第五号議題 「自治委員会」

基本方針「学生の為の自治委員会」を掲げた委員会の機能再確認と一般生徒への意見提案のアピール。

第六号議題 「新聞会」

動一回の新聞発行という活動内容の発表と、より充実した紙面への抱負が語られた。

第七号議題 「東薬祭実行特別小委員会」

国立博物館訪問

JR上野駅前の上野公園内にある東京国立博物館を訪れた。

同博物館の歴史は古く、創立は一八七三年である。ここは四つ主な建物、本館、東洋館、表慶館、法隆寺宝物館から成っている。入口を入ると庭を囲むように、正面に本館、左右にそれぞれ表慶館、東洋館があり、法隆寺宝物館は表慶館の裏側に位置している。本館は、仏像などの彫刻物、能面、武器、衣装など奈良時代から江戸時代のものについて展示している。

第九号議題 「平成元年度決算報告」

「平成元年度決算報告」第十号議題 「平成二年度予算案」

その他 「自治会費検討の為の特別小委員会の設置について」

委員会及び各クラブのより充実した活動を援助する右の委員会の設置が提案された。(以上の議案は全て承認された)また、執行委員会の備品が売却されたこと、それについて委員会側で追求している旨が公表された。

学長リコー制の導入

学長任用規定の改訂

去る五月二十三日、図書館棟四階第一会議室において、学長選説明会が行われた。この説明会の中で、学長任用規定が改正されることが発表された。今回の学長任用規定の改正のポイント、学長候補者を推薦する制度を設ける。推薦人は理事、評議員、教授、助教、講師および課長代理以上の事務員。推薦名は、推薦人一〇名の署名、捺印を必要とする。推薦委員会に候補者一、二名を推薦し、候補者一人を理事長に推薦する。四、学長投票をやめ、別に辞任請求規定を制定する。

気になる三号館G階

現在、教育棟三号館G階は内装工事も行われていない状態。学生立入禁止となっていて、今後の使用予定はどうか、コンクリートより出る蒸気や、酒井教授にコメントをお願いしている。

教育棟三号館G階の使用に、現在放置されているような印象を与えている。これはコンクリートより出る蒸気をとるため、内装をひかえているのである。現在のままでは精密機械、器具はおけない。コンピュータ教育を来年度より予定して、準備を進めているが、当座は二七番教室で行うことになっている。G階は薬学教育の将来を展望して、十分な教育が行えるような施設を考えた。モジュール薬局をセットして、薬局の業務を身近なものとする。また、必修化された病院内実習の準備教育の場として、パネルを展示したり、シュミレーションを行えるようにしている。

G階は通常の教室とは違い、社会的必要に応えられる薬学教育の場として活用される。

薬味

▽テレビが株主総会のニュースを伝えた。このとき初めて電力会社に株主総会が驚いたことを知った。そして驚いたことに、反原発を唱える株主も「私には多分と思えるほど」いた。それとは別にそのニュース映像で「反原発が爆発したらどうするんだか?」と叫んでいる姿があった。▽この日本に於ては「〇〇反対派」現実的である。たしかに「原発が爆発」すれば私達は多大なる被害を被ることであろう。だからといって火力発電を続けていたらいざうだらう。日本人は人類を絶滅させる気か?と。なぜなら日本は炭酸ガスの大産出国。だから炭酸ガスはほとんど炭酸ガスを排出しない。炭酸ガスを排出せず、しかも安定した電力供給ができて、発電コストも原子力より低い電源でなければ、代替電源はなかなかない。だが、この電源は存在しない。▽だからといって「原発は爆発しない」というのも非現実的である。これも人の手による産物であることに変わりはない。人間は操作を必要とする以上、いつ非常事態にもなる。思慮はしない。リアリズムも突進には人災だ。このことから「原発に反対するのだ」、また全人類系に対する影響の浸まじさを考える。人間として当然の事である。▽そこで原発反対派の株主の使命は原発に代わる電源の開発を促進し、常に原発の管理運営の監視をすることにある。私にはないかと思う。反対を唱えている。起すなら具体的な行動を起す。すくすくとした建物、叫んでいても何の解決にもならない。▽チャイナ、セントロームならぬ「アルゼンチン・シンドローム」はごめんこうむりたい。(鳥籠茶一茶)

